

映画を愛し、平和と民主主義を支え、人間の尊厳を守った人々ここに眠る



2021. 12. 24

第98号

〒107-0062 東京都港区南青山4-18-21 南青山スカイハイツ504号 共同映画㈱内 03-6427-4425 FAX03-6434-7040

この会は、故人を納骨・合葬し、墓碑銘にその名を刻銘して、顕彰し、末永く共同して追悼します
この会は、生前予約者を会員として、会員の意思によって運営され、総会で選ばれた理事会が、日常の運営に当たります
この会は、思想・信教の自由を尊重し、宗教・宗派の有無を問わず、映画を愛し、平和と民主主義・人間の尊厳を守ります

ホームページアドレス <http://www.kyodo-eiga.co.jp/bohi.html> Eメールアドレス bohinokai@gmail.com

特集 第12期総会報告

一般社団法人 映画人の墓碑の会 第12期社員総会

11月27日 新宿農協会館中会議室

第12期（通算31回）社員総会は、当初11月6日に予定していましたが、11月7日とか14日が総選挙の投票日として予定されてしまったので、思いきって27日（土）に総会の日程を変更させていただきました。ところが岸田文雄氏が10月4日召集の臨時国会で第100代首相に指名され、同日中に岸田内閣が発足させ、8日に、衆議院本会議で首相所信表明演説、14日に衆院解散、総選挙は10月19日公示、31日投票となりました。

「自公vs野党共闘」の政権交代選挙が戦われたのですが、総選挙の結果も出て、第101代岸田二次内閣が発足する中での、われわれ映画人の墓碑の会の総会となりました。

12期総会は構成員（正会員）201名、出席者141名（本人出席11名、委任状130名）出席率70%で成立いたしました。議長は山口逸郎代表理事が当たり、議事を進行了しました。

主な目次

頁	2	3	5	6	7	8	11	12	13	15	16
会務報告	2022年	第12期社員総会報告	第11期収支決算報告書・貸借対照表	第12期収入支出予算書・会計監査報告	第11期寄付金者名簿	音沙汰あり！	〈ご案内〉七福神めぐり・蔵で映画を観る会	〈演劇紹介〉『命どう宝』公演	あれから五十年	岸田内閣発足、半年ぶりに臨時国会開く	計報、編集後記
多聞寺・その他の行事	蔵で映画を観る会	○1月3日 多聞寺 10時集合 隅田川七福神めぐり	○2月1日 13時 蔵で映画を観る会	○3月21日 11時・14時 彼岸供養							

当番・11時～13時・月（関谷）水（千蔵）金（吉田）

会務報告

第11期 第五回理事会 (10月4日) 事務所

一、衆院選投開票日が当初11月7日に想定されていたので、総会日程を11月27日に変更したことを承認

一、新入会員 森世二、藤ヶ崎容子、藤倉博・邦子

(賛助会員) 御山幸枝

一、役員改選 (12期・13期)

新監事 生駒 巖 (いこまいわお) 弁護士

三役 (継続) 代表 山口逸郎、副代表 (代表代行) 松本平、

副代表 (事務局長) 古川博資 (専務理事) 吉田順平

理事会の拡充を行う 16名の会員に対して、理事を引き受け
てくれるように訴える手紙を総会案内状に入れる。

一、11期収支決算報告・承認

理事参加のおねがい

映画人の墓碑の会代表 山口逸郎

墓碑の会は映画を愛し、平和と民主主義を支え人間の尊厳を守った人々を共同墓地への埋葬を行い顕彰・追悼を行っています。現在合葬者393名、生前予約者195名となっています。2022年4月29日には、30周年の歴史を迎えます。

あなた様に理事をお引き受け願いたく、ご案内を申し上げます。9期 (2018年11月) は19名 (内女性3名) ありましたが、11期 (2020年11月) は9名 (内女性1名) となりました。事務局の5名は皆、後期高齢者となりました。ホームページ開設、七ふくの充実、墨東めぐり、多聞寺の彼岸供養にも、しっかり取り組みたいと考えています。

理事会は年6回ほどです。よろしくお願います。

2021年10月18日

第11期 第六回理事会 (10月18日) 事務所

一、会計監査報告 生駒巖・りんたろう

一、11期の活動日誌

一、12期活動方針案

一、12期収支予算案

第12期社員総会 (11月27日) 新宿農協会館

第12期 第一回理事会 (12月6日) 青山生涯学習館

一、新理事会の構成 神山瑞枝、山口百枝、千藏眞理、平山清一、

吉田順平、関谷先弘、古川博資、楠山忠之、堀田正美、津須利夫、松本平、山口逸郎

一、任務体制

(名誉会長) 石子順、堀内正美、野原嘉一郎、山口義夫

(顧問) 岸田正博 (監事) 生駒巖、りんたろう

(三役) 代表・山口逸郎、副代表・松本平、古川博資、専務・

吉田順平

一、任務分担

(事務局当番) 月―関谷、水―千藏 (会員担当)、金―吉田 (会計担当)

(事務局会議) 山口逸郎、古川博資、松本平、関谷先弘、千藏

眞理、吉田順平 合同追悼会実行

(広報) 古川博資、津須利夫

(墨東めぐり) 関谷先弘、楠山忠之

(写真) 楠山忠之

(七福神めぐり) 山口逸郎

(蔵で映画を観る会) 古川博資

(ホームページ) 理事会で原案確認 平沢清一、松本平

(墓参)

一、理事会日程 場所 青山生涯学習館

第一回 12月6日(月)

第二回 2月28日(月)

第三回 4月18日(月)

第四回 6月13日(月)

第五回 10月3日(月)

第六回 10月17日(月)

一、4・29までの年間計画

12/6 第一回理事会

12/24 七ふく98号発送 望年会

2/28 第二回理事会

3/28 七ふく99号発送・案内状発送

4/18 第三回理事会

4/29 第31回合同追悼会

一、訃報 川崎麗子 7/27逝去 享年90歳

一、埋葬申し込み 稲垣たか子 74歳

一、生前予約 稲垣美保子 83歳

大川恭子(全骨)
坂倉 哲(全骨)

12期 社員総会報告

一般社団法人映画人の墓碑の会は第12期社員総会を2021年11月27日(出)13時半から新宿農協会館で行いました。

先ず司会より11月6日予定を11月27日に大幅に日程を遅らせて

の総会であることが告げられました。

12期は役員改選期でもあり、監事 鎌田克一氏の逝去(7月31日)にともない、生駒巖氏を後任として選任しなければなりませんので、解任・選任にあたっては「総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない」と定款にあるように、本総会は構成員201名に対して委任状を含む出席者が141名で出席率70%を示していますので、成立いたしました。

議長に代表理事の山口逸郎氏を選出して、午後1時45分議事に入りしました。

最初に物故者に黙祷をささげ、山口代表があいさつしました。「本日第12期(通算31回)社員総会は、定款3章に基づいて開催いたします。今回の社員総会においては、11期の活動、収支決算報告の承認と、12期活動方針案、収支予算案を確認し、決定し、てくださることをお願い申し上げます。

その上で、今回は特に会の維持発展を願って、理事補充に向けて会員の皆さんに理事応募を訴えてきました。

それに応じて理事に参加して下さる方も数人ありました。理事補充に向けてのご意見、ご提案等検討くださることを願ってごあいさついたします。

当日の出席者は次の方々でした(敬称略・順不同)。

神山瑞枝、山口百枝、平沢清一、千藏眞理、酒井登、古川博資、山口逸郎、吉田順平、松本平、楠山忠之、(生駒巖)

◇ A4判、目次のほかに25ページ綴りの議案書が配られました。

前半は11期の任務体制と活動と決算報告があり、現状の登記簿のコピーを掲載してしめくくっている。副代表理事の古川博資は4月29日の第29・30回合同追悼会に関しての、新しい取り組みにつ

いて特に報告した。東京都における新型コロナウイルス感染者数は、4/27は826名・4/28は925名・4/29は1027名・4/30は698名：第3回目の緊急事態発令中であった。2年分の合同追悼会で、26名の合葬者があり、15名の納骨者があった。本堂の使用には50名の制限があった。納骨式として新遺族には、一遺族3名までと案内した。理事7名を加えて参列者は45名となった。マスク着用、アルコール消毒、ディスタンスをとっての流れをつくった。折鶴は千羽鶴にして、合唱に代えてCDを流した。時間短縮のため遺族ごとに起立紹介し、全遺族の追悼文は七ふくに特集した。

遺族ごとに墓碑へ移動して納骨してもらった。遺族毎に記念写真を撮って、遺族に送りました。コロナ禍で二年振りの合同追悼会はたくさんさんの教訓がありました。

つづいて、千藏眞理理事から、今回黒字に刻銘した方々の名前の発表があり、9月30日現在、全合葬者が401名になったことと、正会員は13名増えて、逝去者を引いて現在193名あることが報告されました。つづいて、吉田順平専務理事から決算報告等がありました。満場の承認で前半が終了しました。

その後参加者一人ひとりから自己紹介をうけて、後半に入りました。古川より12期活動方針案、吉田より12期収支予算案が提案されました。つづいて役員の変更です。

現理事9名が留任された上に、神山瑞枝さん、山口百枝さん、平沢清一さんが新しく理事に加わってくださいました。

監事は11期鎌田克一司法書士でしたが、7月30日に逝去されましたので、新しく生駒巖弁護士を選任いたしました。りんたろうさんと生駒巖氏が監事となりました。この件については東京法務局港出張所へ登記することになります。

総会終了後参加者懇談会を持って16時半に散会しました。「来

年は総会の日に一時間ほどの懇談会が持てるといいね」という声がありました。

◇ 12期活動方針案の中で特に第31回全合葬者・合同追悼会は30周年記念でもありますから、法要開始前一時間（12時～13時）にはピアノ演奏など生演奏を入れる案が出されましたが、正式には2月28日の第二回理事会で決定することになります。



第11期 収支決算報告書

2020年10月1日～2021年9月30日（単位：円）

収入の部				支出の部			
区分	科目	決算額	比率	区分	科目	決算額	比率
	前期繰越金	65,453			墓碑維持費	301,890	
1	繰越金合計	65,453	1.5%		会議費	91,612	
					通信費	125,456	
	特別会費	1,300,000			事務局費	725,500	
	埋葬負担金	1,000,000			広報費	414,180	
	入会費	160,000			賃貸料	792,000	
	寄付金	816,000			公租公課	70,000	
2	事業収入計	3,276,000	75.5%		雑費	57,348	
					予備費	205,400	
	受取利息	547		1	事業費計	2,783,386	64.0%
	雑収入	0					
3	事業外収入	547			合同追悼会費	252,983	
				2	その他支出計	252,983	5.8%
	基金取崩金	1,000,000					
4	その他収入計	1,000,000	23.0%	3	次期繰越金	1,305,636	30.2%
5	収入の部合計	4,342,005	100.0%		支出の部合計	4,342,005	100.0%

第11期 貸借対照表

2021年9月30日現在（単位：円）

科目	本年度	前年度	増減	備考
資産の部				
定期預金	15,037,773	16,037,577	▲999,804	定期・100万円取崩
現金預金	1,305,440	65,458	1,239,982	
前払金	50,000	50,000		
什器備品	141,520	141,520		
資産の合計	16,534,733	16,294,555	240,178	
基金及び剰余金の部				
基金	15,037,773	16,037,577	▲999,804	
剰余金	1,496,960	256,978	1,239,982	
基金・剰余金の合計	16,534,733	16,294,555	240,178	

第12期 収入支出予算書

2021年10月1日～2022年9月30日（単位：円）

収入の部			支出の部		
区分	科目	金額	区分	科目	金額
	前期繰越金	1,305,636		墓碑維持費	270,000
				会議費	95,000
				通信費	125,000
1	前期繰越金計	1,305,636		事務局費	720,000
				広報費	420,000
	特別会費	1,000,000		賃貸料	792,000
	埋葬負担会費	850,000		公租公課	70,000
	入会費	50,000		雑費	48,000
	寄付金	700,000		予備費	60,000
2	事業収入計	2,600,000	1	事業費支出計	2,600,000
	受取利息	1,000		創立30周年記念行事費	200,000
	雑収入	1,000		合同追悼会	
				什器備品	120,000
3	事業外収入	2,000	2	その他の支出計	320,000
			3	次年度繰越金	987,636
4	収入の部合計	3,907,636	4	支出の部合計	3,907,636

<p>一般社団法人 映画人の墓碑の会</p> <p>代表理事 山口逸郎</p> <p style="text-align: right;">監事 赤井七 生明 </p> <p style="text-align: right;">監事 山崎 芳樹 </p> <p style="text-align: center;">会計監査報告書</p> <p>2021年10月12日、山口逸郎代表理事、吉田孝平専務理事（財務総理事）立会いのもとで、幹事 生駒 巖が、又、幹事 りん たろう は、10月15日一般社団法人 映画人の墓碑の会の第11期（2020年10月1日から2021年9月30日）の会計について、会計監査を実施いたしました。</p> <p>監査に当たっては、吉田財務担当理事の説明を聴きつつ振替伝票、元帳、領収書、請求書、銀行預金通帳等を照合した結果、財務に関する事項は、複式簿記の原則に基づいて総勘定元帳に正確に記入されており、会計原則その他の法令に合致しており請求領収書等も適正に処理されておりましたので、ここに報告申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会計担当者の吉田専務理事から第11期の決算報告がありました。報告は①第11期の収支報告と貸借対照表、②第29・30期全合葬者・合同追悼会の収支について行われました。

本年度の事業収入は327万6千円に対し事業費の支出は合同追悼会の赤字補填分を含め303万6千円となり、24万円の黒字となりました。

次に山口代表理事より会計監査に報告があり、続いて吉田専務理事より第12期の収支予算案について提案説明がありました。第12期の予算額は事業費の収支については、昨年度と同額の収支それぞれ260万円を計上、他、支出については本会創立30周年記念事業費として20万円、パソコン購入費として12万円を計上しましたので、支出の総合計予算額は292万円となりました。質疑応答の後、決算報告、予算案について、共に全会一致で可決、承認されました。

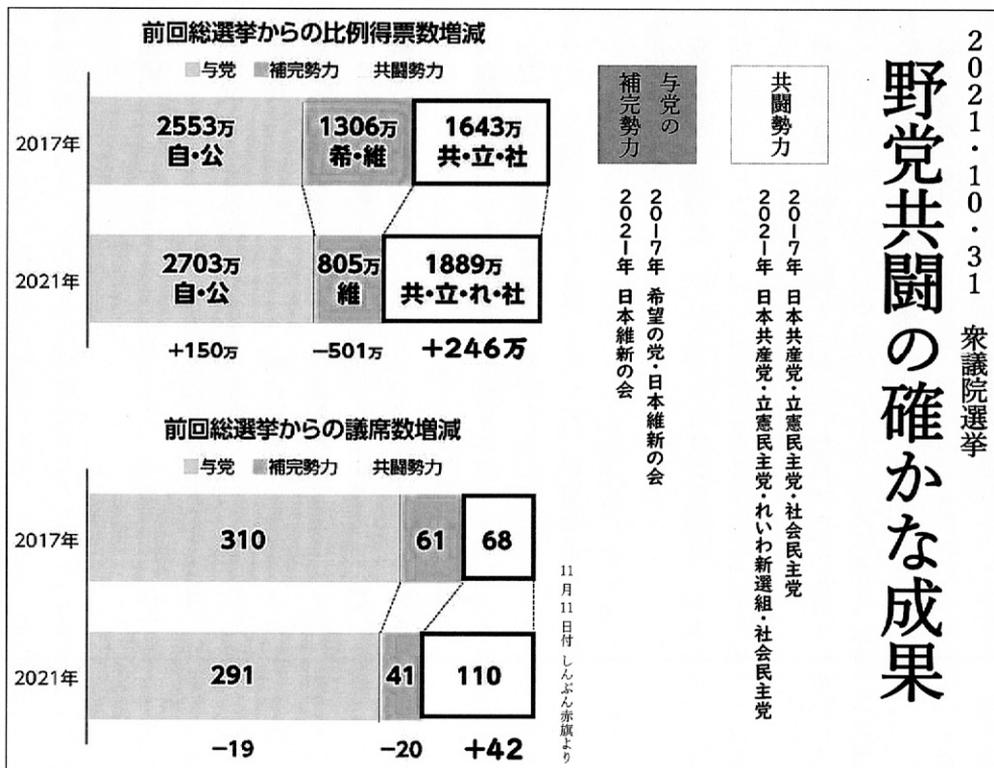
なお、決算報告書の明細と寄付金者名につきましては、総会議案書をご覧頂きたいと存じます。

第11期 寄付金者名簿

2020年10月1日～2021年6月30日

No.	氏 名						
	(あ段)		(き段)		(ち段)		(ま段)
1	相崎國太郎	25	木下央子	43	千蔵真理	61	松浦邦子
2	有山一子					62	松井晶子
3	赤塚和子		(こ段)		(つ段)	63	前島潤一郎
4	荒木由美子	26	近藤高子	44	鶴嶋シマ子	64	前納裕子
				45	堤 恵子	65	増島秀男
	(い段)		(さ段)			66	馬淵純子
5	石子 順	27	齋藤禮子		(な段)		
6	石川 清	28	佐藤充男	46	永橋晃枝		(や段)
7	石黒計三	29	境屋地谷子	47	内藤智之	67	矢島正明
8	伊藤博三			48	中村光男	68	山口百枝
9	伊藤千恵		(し段)			69	山口 実
10	泉 良子	30	島田 耕		(ね段)	70	山口逸郎
11	猪俣 香	31	進藤淳一	49	根崎啓子	71	山田美香子
		32	新堀統宮子	50	根本哲史		
	(う段)						(よ段)
12	内山時雄		(す段)		(の段)	72	吉田順平
13	宇都宮寧子	33	鈴木莊介	51	野原嘉一郎		
		34	菅野 尚	52	野村祥子		(わ段)
	(お段)					73	渡辺ひろみ
14	大石元子		(せ段)		(ふ段)		
15	大倉弥生	35	関谷先弘	53	古川博資		
16	太田玲子			54	福原より子		
17	大塚智英子		(た段)	55	福沢久子		
18	緒方承武	36	高橋 栄				
		37	高橋智江		(ほ段)		
	(か段)	38	高崎麻紀子	56	保刈よしえ		
19	加藤雅子	39	滝澤美奈	57	堀 恒之		
20	加藤嘉信	40	田中須賀子	58	本田 正		
21	川村 明	41	武田一男	59	本間文子		
22	川口美智子	42	武井和子				
23	河崎素子				(む段)		
24	片野福子			60	村山容子		

「音沙汰あり」は個人情報保護の観点から掲載いたしません。



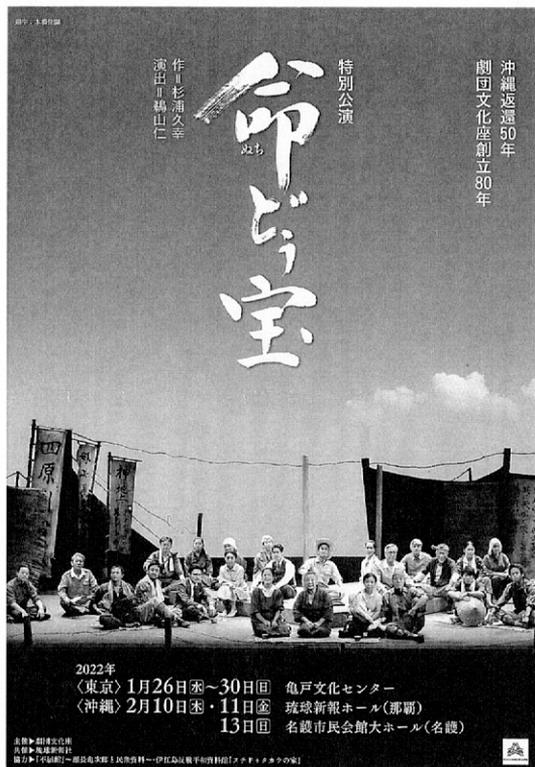
演劇紹介

沖縄返還50年・劇団文化座創立80年

『命どう宝』公演

平沢清一

2022年は沖縄が本土に復帰して50年を迎える。この節目に、たびたび沖縄を題材とした作品を上演してきた劇団文化座は、創設80年の記念として『命どう宝』を公演する。米軍の「銃剣とブルドーザー」による土地の収奪に、阿波根昌鴻氏ら伊江島の農民たちが非暴力による座り込みで抵抗し、政治家の瀬長亀次郎氏が米軍の激しい弾圧に晒されながらも反基地闘争の先頭に立ち、それを県民の「島ぐるみ闘争」へとつなげていった歴史を描く。



沖縄返還50年
劇団文化座創立80年

特別公演

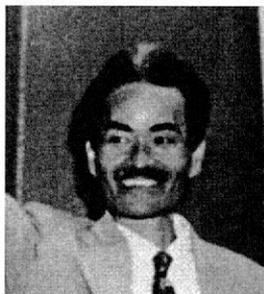
作 杉浦久幸
演出 鶴山仁

2022年
〈東京〉1月26日(金)~30日(日) 亀戸文化センター
〈神縄〉2月10日(金)・11日(土) 琉球新報ホール(那覇)
13日(日) 名護市民会館大ホール(名護)

主催 劇団文化座
共催 琉球新報社
協力 伊江島文化センター・伊江島民会館・伊江島文化センター



あは こんしょうこう
阿波根 昌鴻 氏



せながかめじろう
瀬長 亀次郎 氏

『命どう宝』は、阿波根氏と瀬

長氏の関係を示す手紙が発見されたことをきっかけに構想され、2017年に初演された。出演者でもある文化座の代表・佐々木愛氏为主演した『劇映画 沖縄』(1969年・武田敦監督)は、米軍占領下の沖縄で撮影を決定し、阿波根氏のモデルを中村甞右衛門氏が演じ、米軍に蹂躪される県民の抵抗と怒りを痛烈に突きつけた。また、瀬長氏の生涯と人柄に迫った『米軍が最も恐れた男 その名は、カメジロー』(2017年・

佐古忠彦監督)は、ドキュメンタリー映画としては異例のヒットを記録している(続編『カメジロー不屈の生涯』(2019年・佐古監督)も製作された)。

民意を黙殺して辺野古新基地建設を強行する政府に対して、粘り強く闘う「オール沖縄」の原点である阿波根氏と瀬長氏の不屈の精神を『命どう宝』から学び、基地のない平和で豊かな沖縄の実現と、沖縄戦の悲劇や命の大切さについて改めて考えていきたい。

○出演 白幡大介、藤原章寛、佐々木愛、津田二朗、青木和宣ほか
○作 杉浦久幸 ○演出 鶴山仁

○公演予定 2022年1月26日(金)~30日 亀戸文化センター、2月10日・11日 琉球新報ホール(那覇)、2月13日 名護市民会館大ホール

あれから五十年

元日活・墓碑の会副理事 松本 平

クリスマスソングが流れ慌ただしい年の瀬、五十年前の一九七一年十二月二十四日、新聞各紙が「大映」の倒産を大きく伝えた。このニュースは大映関係者だけでなく映画関係者も、調布市内もその話題で持ちきりであった。

戦後「娯楽の王者」と言われ黄金期を築いた映画界が「斜陽産業」となり厳しい時代になっていることはすでに知られていた。しかし「倒産」となると受け止め方は違う。当時、私は、まだ三十歳代だったが日活撮影所で組合活動を熱心に取り組んでいたが日活も「倒産状況」であった。それは、一九六九年、日活撮影所



が電電公社（現NTT）に売却され、その後も全盛時代のシンボルとなっていた日活国際会館・日活ホテルも七〇年一月に売却されていた。そのうえ映画は、大映・日活の共同配給会社「ダイニチ映配」が設立されていたが、たった一年で行き詰まり七一年七月、それまでの映画製作は出来なくなっていたのである。ある週刊誌に「撮影所は閑古鳥が鳴いている」と書かれた。

そのような年の暮れに起きた大映の倒産である。大映社員の奥さん達が会社に押しかけ抗議する一幕もあった。大映労組は胸に「黄色いゼッケン」を着けて全国的な大闘争を展開した。

一方、日活労組は「倒産させない闘争」を進めた。特に撮影所問題では、監督もスタッフも俳優も結束して「撮影所の買戻し」を要求した。このような両労組の闘いは、生活を守ることと仕事を守り再建させる困難な闘いだったが、大映労組は、大映映画を労働債権として取得し、組合が事業活動を行った。破産法で会社を消滅させる目的でやってきた管財人も認めざるを得ない。日活も「戦争と人間」や児童映画を製作する等の方針を進めたが、同時に、この年の十一月からロマンポルノ製作をスタートさせたのである。まさに「複雑な闘い」であった。この頃、東映も松竹も東宝も様々な「合理化」を進め労使紛争が起きていた。また、この年は世界も日本も転換期にあった。一九七一年八月二五日、アメリカがニクソン声明（金とドルの交換停止）を出し、金融不安をまねく出発点になる年でもあった。その様な時代の中で逞しく闘った大映労組は、破産法の常識を破り徳間書店をスポンサーに再建を実現した。しかし、徳間社長が逝去、第二次の危機を乗り越えて角川大映へと引き継がれ現在に至っている。一方、日活労組も撮影所買戻しを実現し再建の基盤とし「組合管理会社」等と言われたこともあった。しかしバブル経済崩壊後、一九九三年六月倒産したが「更生法による再建」となり生き残った。

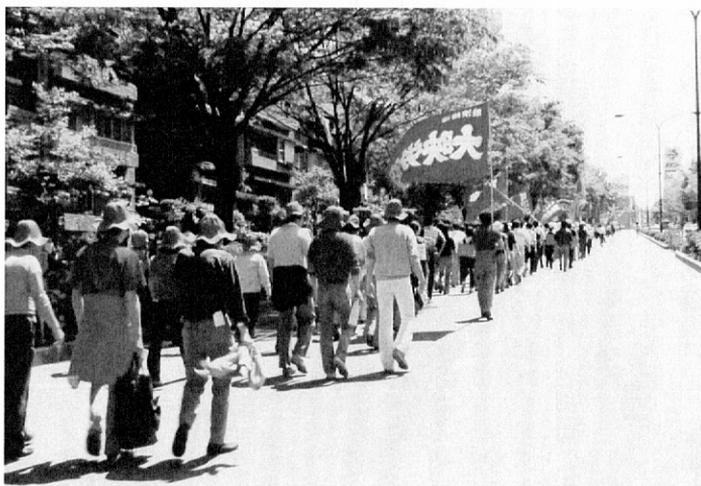


こうして五十年間を振り返ると言い尽くせない程いろんな事件があり映画、映像を取り巻く状況も大きく変わった。衛星放送、ビデオ、DVD、ネット時代と目まぐるしく技術革新が進んだことにある。それをどう考えるか難しい。しかし、そうした変化の中でも、映画というコンテンツの価値は変わらないどころか映画がなければ成り立たない。そのように大事な産業でありながら映画産業の現実を覗くと驚くことも多い。製作はすべて製作委員会方式、興行はシネコン、興行収入の上位はアニメ作品、そして、スタッフはフリー化となり低賃金、無権利だと言われる。五十年経った今、この現実をどう考えたらよいのか。「日本映画の将来はどうなるのか」心配する意見も多い。

私も八十歳代の後半、墓碑の会の会員だが、多聞寺で眠っている仲間もいる。あの頃のこと切身に感じることもある。

「あの時の仲間は今どうしているのだろうか」と思うこの頃で

ある。
追記 紙面の関係で随所に省略してしまったことがあることをお許しください。



岸田内閣発足、半年ぶりに臨時国会開く

改憲と大軍拡の危険。国民の願いに応える政治を

広報委員 津須利夫

9月3日、菅義偉首相は突然、自民党総裁選に出馬せず、退陣を表明。総裁選は岸田文雄氏ら4人の争いとなり、岸田氏が選出。首相指名の臨時国会が開かれ、新首相に岸田氏が選出された。首相は10月4日、国会を召集、衆院議員の任期切れを前に10月14日衆院を解散し総選挙に踏み切りました。総選挙は10月19日公示、10月31日投票で行われました。

総選挙の結果、自民党は261議席、公明党は32議席を獲得、政権を維持しました。維新の会が41議席と伸び、野党共闘で闘った立憲民主党は96議席、日本共産党は10議席と公示前より後退しました。国民民主党は11議席、れいわ新選組は3議席、社会民主党は1議席、その他・無所属は10議席でした。

総選挙では定数1の小選挙区であり、自民・公明政権に対し、立憲民主党、日本共産党、社民党、れいわ新選組の4野党は「野党共闘」の闘いに取り組みました。9月8日、4野党は「市民連合」と総選挙で自公政権を倒し、命を守る新しい政権をめざす20項目の政策で合意し、立憲、共産両党の党首は政権協力で合意しました。日本共産党は「限定的な閣外からの協力」としていました。

選挙結果を受け、立憲民主党の枝野幸男代表が辞任。新代表選挙で泉健太氏が選ばれました。立憲民主党は政権協力の合意を見直す動きを見せており、来年の参院選を控え、野党共闘の動向が注視されます。

総選挙の中では、政権与党と維新の会は、一部メディアも加わり野党共闘と日本共産党に激しい攻撃を加えました。この中で、共闘勢力は、一本化した59選挙区で勝利しました。このうち56選挙区で「共闘勢力」の比例得票は小選挙区候補の得票を上回る「共闘効果」がありました。しかし、共闘の大義や魅力を伝え切れない弱点がありました。今後とも野党共闘は必要で、来年の参院選に向け、両党間の合意継続が望まれます。

2021年は新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、1月はじめに2回目の緊急事態宣言が発令される中で迎えました。菅内閣のもと、通常国会が1月18日に召集、会期は6月16日まで150日間でした。野党は国会の大幅延長を求めました。7月4日投票で東京都議選がありました。東京五輪中止を求める国民、野党の声を押し切って、東京五輪が7月23日から8月8日まで、パリンピックが8月24日から9月5日まで行われました。

8月6日、菅首相は広島市の平和記念式典で重大な読み間違いをしました。首相への信頼は揺らぎ、9月の退陣につながりました。

菅首相は通常国会閉幕後、野党が要求した、憲法の規定に基づく臨時国会開会の要求を無視し続けました。

日本では、秋になって新型コロナウイルス感染症は減少しています。しかし、オミクロン株という新たな感染症が世界的に増え、日本でも12月9日現在、4例が確認されました。心配な動きです。

岸田首相は12月6日、臨時国会を召集。会期は12月21日までの16日間です。半年ぶりの論戦の場です。岸田首相は6日、衆参両院で所信表明演説を行いました。この中で、「新しい資本主義」を標榜しつつ、歴代首相で初めて「敵基地攻撃能力」の検討を明言しました。また、改憲に向けて「国民の議論を喚起しよう」とも述べました。軍事と憲法の両面で「安倍・菅政治」の継承だけ

でなく、これまでにない危険性を示しました。沖縄では辺野古の新基地建設を継続しています。各党の代表質問が12月8日から開始。

補正予算案は一般会計で過去最大の35兆9895億円。過去最大の軍事費7738億円を計上、当初予算と合わせて初めて6兆円を越えました。大軍拡です。「敵基地攻撃能力」は海外で戦争する国への危険な道です。

改憲は戦争放棄の日本国憲法9条を変えてしまおうというもので、9条を守れ、憲法を生かせという国民的な大運動が求められます。

「戦争させない・9条を壊すな」の新署名が始まっています。

「憲法改悪を許さない全国署名」です。

12月8日は、太平洋戦争開戦から80年でした。全国で「戦争放棄は世界の宝」と平和を守る行動が行われました。

(2021年12月9日記)

計 報

川崎 麗子さん 二〇二一年七月二十七日没 享年九十歳

一九三〇年八月十六日、東京都大田区雪谷生まれ。四八年都立雪谷高校卒。松徳和洋裁専門学院、田村魚菜料理学校卒(調理師免許取得)。一九六二年、徹広と結婚する。「僕と一緒に墓に入るんだよ」とプロポーズ。自主製作などの夫の仕事に協力するため、運転免許を取得。九四年七回忌に川崎徹広シナリオ集を発売する。画歴・東京アカデミー卒、日伯ビエンナーレ連続入賞。二科展同人。個展も開く。追悼会、墨束めぐりなど、毎回のように参加していました。

編集後記

○津須利夫 新型コロナ感染症に対応してきた1年でした。この中で、合同追悼会は何とか開催できました。今年は新型コロナの中、東京五輪やパラリンピックが強行されました。9月に菅首相が突然退陣、自民党総裁選で岸田文雄氏が当選。新たな首相として登場しました。

総選挙が行われた結果、引き続き自公政権ですが、自公の補完勢力が伸び、政界地図が変わりました。

新型コロナが減少の中で、オミクロン株という感染症が心配になってきました。

○古川博資 七ふくは、古川・津須・裕和印刷の間で、郵便・ファックス・メールを行き来させながら、二度の校正を重ねて印刷に入っています。原稿依頼した人には直接裕和へメールして貰い、校正は、私が朱を入れた原稿を妻にパソコン入力やスキャンして貰い、裕和へ送ります。これがこの2年のコロナ禍での七ふく製作のカタチとなっています。

12期(2021・12)は新しい理事3名が加わり、女性3名を含む12名となりました。今回は上映会での作品の推薦や、「音沙汰あり!」の入力をしてくださる方、また、映画・演劇の紹介を恒常的に引き受けてくださる方が現れました。

私たちの「いのちと尊厳を守る」ということを考えたとき、たとえ身体は衰え、イベントなどに参加できなくなりましたが、意見や情報を交換することはできるとひらめきました。

380字(1/4ページ)・760字(1/2ページ)の原稿をお寄せいただければ幸いです。みなさんの声をお待ちしております。